

重粒子線医学センターにおける緊急時の備え ～多職種スタッフでの取り組み～



重粒子線医学センター（以下GHMC）は、重粒子線治療を行うための施設です。病院（群馬大学昭和地区）の敷地内ですが、予期せぬ事態の際に病院とは異なった対応が必要になります。そのため、2010年3月に治療開始してから、救急部の協力を得ながら、緊急時の対応について取り組んでいます。今回はその内容について、ご紹介いたします。

重粒子線医学センターの特徴



2010年3月治療開始
年間約300-400名の重粒子線治療を実施している
施設内にはMRIやCTの装置も設置され、造影剤を使用した検査も行われる

- * 施設が離れている（病院とGHMC間は繋がっていない）
- * GHMCから車いす・ストレッチャーで患者さんを移動するには搬送車が必要である
- * 長期間にわたり、十分な治療を提供できる環境や物品が不足している



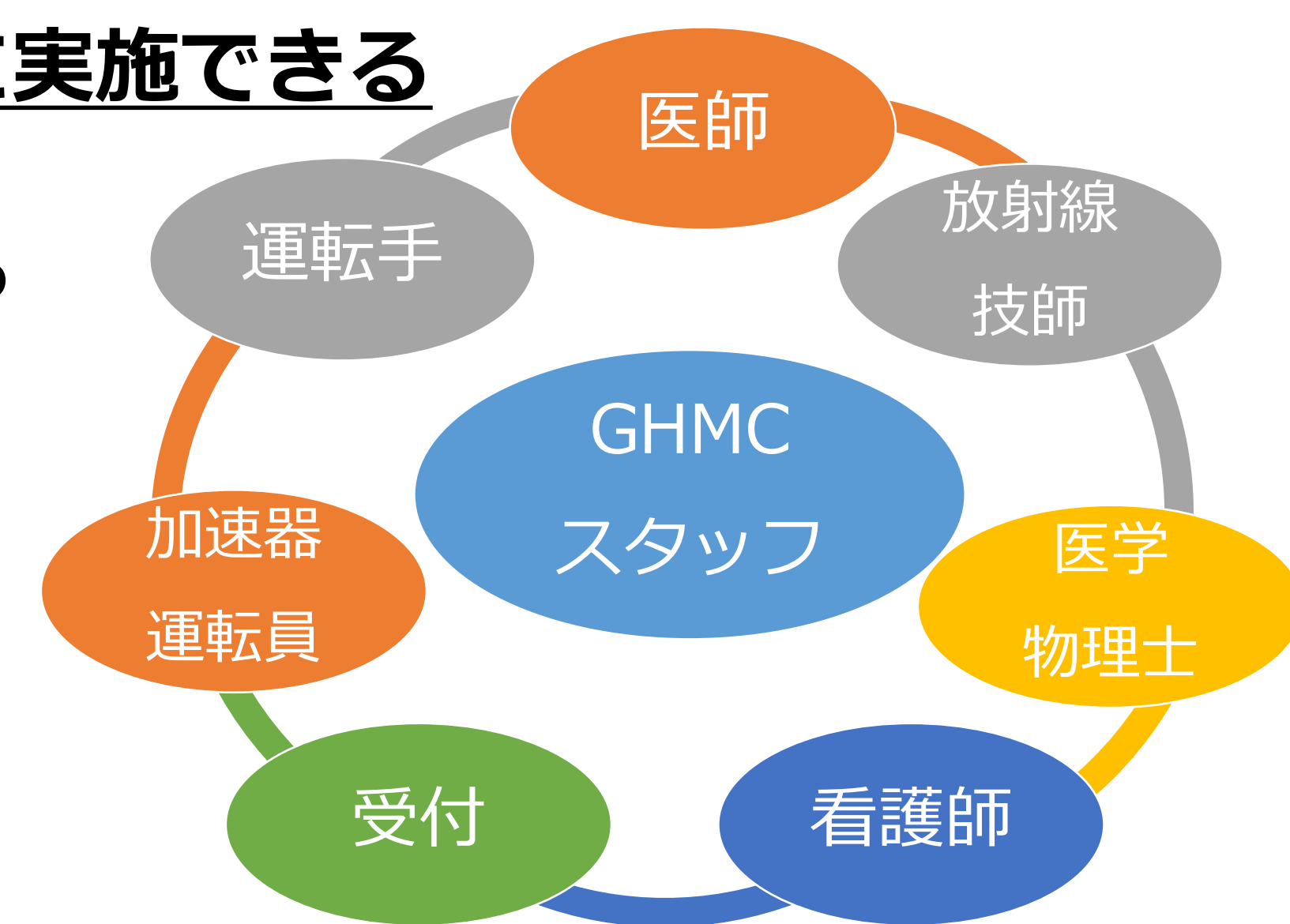
病院と重粒子線医学センター間の送迎に使用している搬送車
(車いす・ストレッチャーの移動も可能)

緊急時対応の目的

1. GHMCに勤務する多職種スタッフ（医療職以外も含む）が協働し、**一次救命処置が適切に実施できる**
2. 一次救命処置ののち、早期に適切な手順で、救命救急センタースタッフ等の協力を得て**安全に病院へ搬送する**

緊急時への備えとしての訓練実施

救急部の協力を得て、開設当初より**全職種で一次救命処置ができる訓練**を実施している



2010年3月治療開始

2010年8月 BLS講習会 + 緊急対応訓練



GHMCカンファレンス室でBLS実施の様子

参加者数35名+BLSインストラクター等12名

- <内容>
- ・ BLSとAEDの使用法についての講義・実習
 - ・ センターに検査のため来院した患者が突然気分が悪くなり意識消失した状況でのロールプレイ
- <検討事項>
- ・ 患者搬送方法の検討（当時は搬送車がない）
 - ・ 4444コールをしてから、どのくらいでGHMCに到着するか
 - ・ センター内の物品・薬品の確認

2015年1月 BLS講習会 + 造影剤ショックを想定した緊急対応訓練



スキルラボセンターでBLS実施の様子

参加者数40名+BLSインストラクター等

- <内容>
- ・ BLSの講義@スキルラボセンター（院内のBLS講習と同じ形式で実施）
 - ・ 造影CT検査時の造影剤ショック→救急部へ搬送
- <検討事項>
- ・ 実際に模擬患者（スタッフ）を救急部まで搬送センターから約10分かかる車内でかなり揺れる



治療計画CT室での一次処置後ICU医師が到着した場面



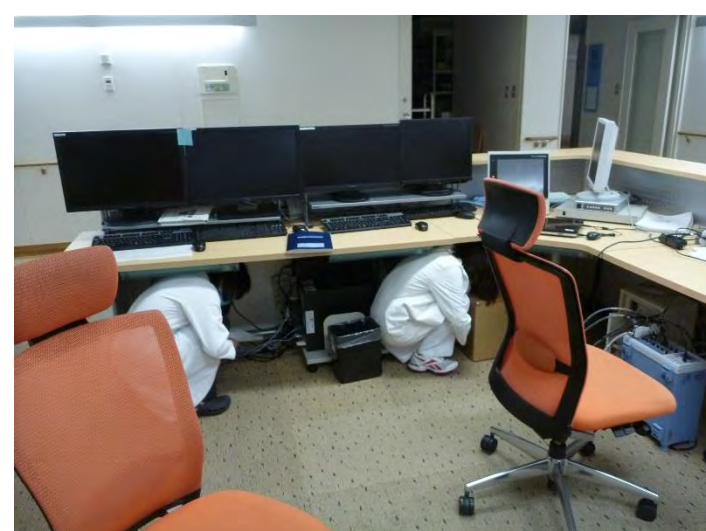
搬送車で救急部へ実際に搬送



GHMC開設にあたり、不測の事態に備えて、GHMC内の待合ホールにAEDを設置した。

参加者数約30名

- <内容>
- ・ GHMC内の防災設備と放射線管理区域の講義
 - ・ GHMC内の防災設備の確認
 - ・ 地震発生・火災発生を想定した避難訓練
- <検討事項>
- ・ 治療中の患者の安全をどのように守るか
 - ・ 防災設備の充実
 - 物品等の配置・整備



揺れを感じて身を守る様子

2012年3月 避難訓練



揺れが落ち着き患者さんを安全な場所へ誘導する様子

2017年6月実施予定 造影剤ショックを想定した緊急対応訓練（計画中）



緊急対応WGの活動の様子

- <内容>
- ・ GHMCにおける緊急時の対応について講義
 - ・ 造影剤についての講義
 - ・ MRI撮影時の造影剤ショックの事例でシミュレーション予定
- <検討事項>
- ・ 既存のルールで問題はないか
 - ・ 変更すべき点等の確認

まとめと今後の課題

- ・ GHMCの状況に沿って緊急対応訓練を行うことで、スタッフへの周知ができる
- ・ 定期的に訓練を実施することで、問題点を抽出し、改善することができる
- ・ 今後は1年に1回程度の訓練が実施できるよう体制を整えていく

GHMCを利用される皆さんが、安心して治療・検査を受けていただけるよう、多職種スタッフで協力し、継続した訓練・検討を行っていきます。